

令和5年度 第2学期終業式
校長訓話
(令和5年12月22日)

生徒の皆さん、おはようございます。

令和5年度2学期が今日で終わります。

さて、南高の2学期はこの言葉から始まりました。

「ニューノーマル」

このスローガンのもと、アイデアを出し合い議論を交わし、熱量を集中させ成し遂げた朱雀祭。3年生を中心に組同士が競い合い讃え合う姿が目には焼き付いています。

この朱雀祭を皮切りに、研修旅行、フィールドワークやRAPでの探究学習、球技大会をはじめ、日々の授業、SSHの活動、部活動、学校行事、様々な発表会やコンペティション、地域活動に意欲的に取り組んでくれました。先ほど表彰式でたくさんの呼名や紹介があったように、皆さんの頑張りや成長が、いろいろな場面で、全国大会や中国大会への進出をはじめとする素晴らしい成果となって表れた学期であったと思います。

ところで、「今」を強調した言葉があります。

それは、「過去が咲いている今、未来のつぼみで一杯な今」という、陶芸家の河井寛次郎氏の言葉です。

「過去が咲いている今、未来のつぼみで一杯な今」

河井寛次郎氏は、安来市出身で、大正から昭和の時代に活躍した日本を代表する著名な陶芸家です。さらに書や詩、随筆などでも優れた作品を残している人物です。学校の系譜では本校の前身である松江中学の卒業生であり、2年生の時、将来陶芸家になろうと決意し、現在の東京工業大学に進学されました。

当たり前のことですが、過去から今、今から未来は連続しています。

その中で、私たちが生きるのは「今」であり、私たちは今以外には存在できない。

「今」の一点で、私たちは呼吸し、生き、思考し、行動しています。

そして、この「今」のなかに過去が咲き、また、「今」のなかに可能性に満ちた未来のつぼみがあります。

過去の努力が現在の姿をつくり、現在の努力はそのまま未来の姿を約束しています。

仮に、過去を振り返り後悔したとしても、

また、今が辛くても、

そして、未来に不安があったとしても、

今咲き、未来にも咲き続けようとする前向きな、一人一人の努力が、人生の質を高め、決めると言っていると私は思います。

過去の自分のためにも、未来の自分のためにも、今を真面目に、「ありがとう」と感謝の心を持って精一杯生きることが大切ということです。

3年生の皆さん、大学入学共通テストまでひと月を切りました。不安で落ち着かないのかもしれませんが、皆さんには、まだまだ伸びしろがあります。皆さんは成長途

上にあります。目標に向かって一切のものを排除し、徹底的に集中する期間です。

寒い時期です。まず、体調に気をつけて、焦らずに、「さあこれからだ！」の気持ちを持って頑張りたいと思います。

皆さんの未来で、つぼみという希望が、見事な花となって咲くことを心から祈っています。

河井寛次郎氏は陶芸家らしい次の言葉も残しておられます。

「泥身火魂」

この言葉は、河井氏が指導された出雲斐伊川のほとりにある出西窯が創業した際に、河井氏が贈った言葉です。

往々にして、何かを成し遂げる時、それは、簡単にそして手際よくいかないものです。泥の中で、もがき、這いずり回るような状況に陥ることがあるでしょう。しかし、そんな苦難の時も、諦めず、心を炎のように熱く燃やし、粘り強く取り組めば、大丈夫、希望は実現しますよということです。

例えば、寒さの厳しい冬場といった、人がやらない、人がやりたがらない時に、心を燃やし、身体を鍛えぬくといったことを、泥臭くもがき愚直に積み上げできる者にこそ、来シーズンの大会で力を発揮し、栄冠を手にする可能性が高くなるのです。シーズンオフの冬が勝負です。

「デイシンカコン」、「デイシンカコン」、「デイシンカコン」、……

泥にまみれても、自分から逃げずに、壁を乗り越えられるよう、日々挑戦を続けて欲しいと思います。

二刀流の挑戦を続ける 大リーグ ドジャース大谷翔平選手は語っています。

「毎日やっていれば、良かった悪かったは必ずある。

ここが悪かったというのが、出てくるのはとても幸せなこと。」

「自分には足りないところがたくさんある。まだまだ上手くなれると思う。」

心に響きます。

誰しも自分の欠点やミスは見たいものではありません。目を背け、ごまかしたくなるものです。しかし、自分と素直に向かい合い、何ができて、何ができていないのか。正しく自分を捉え、自分の欠点やミスが見つかったら、そこを補強することで、また、一歩前進できる。足りなければ補えばよい、間違っていれば改めればよいのです。わかること、できることが増えるのは楽しいことです。だから、努力を続けます。

日々の生活の習慣や学びに向かう姿勢も然り、年齢や場面を問わず通じることではないでしょうか。

1・2年生の皆さん、いつも言っています。

節目を大切に、節目の成長のきっかけにしてほしい。

節目にあたるこの時期に、過去の自分を振り返り、未来に向かって、「今」どのような努力をなすべきかを改めて考えてみてほしい。

過去の自分から「なりたい自分」を、すなわち目標を立て、新年に当たり、ぜひ目標を言葉に表し、それに向かって、新たな年、新たな気持ちで踏み出して欲しいと思います。

また、この年末年始、時間的余裕がある時期でもあります。ぜひ本校の図書館などを利用して、たくさんの素敵な本と出会ってください。読書を通して、「自分」と向き合い、読書を楽しみながら、「自分」を知り、自分の生き方や在り方を、自らの将来、進路を探究することができれば良いと考えます。それを保護者と話し合うことができれば、さらに良いと思います。

最後に、皆さんが、「今」を大切にしながら、有意義な冬休みを送り、1月9日の始業式に元気な姿を見せてくれること、そして、来る2024年が明るく実り多い年になることを願って、終業式にあたっての話とします。

終わります。